

2014年7月27日

ブライアン・ブルエット牧師

## ピリピ人への手紙：喜びの青写真 #6

今日も引き続き、ピリピ人への手紙を学んでいきます。これは、使徒パウロがピリピにある教会に宛てた手紙です。パウロはこの教会を開拓しましたが、手紙を書いた当時はローマで軟禁生活中でした。福音を宣べ伝えたことで捕えられたのです。これまでの学びで、パウロは福音宣教に情熱を燃やすクリスチャンであることがわかりました。また、過酷な環境のもとでも喜びを見出すことのできる人でした。なぜでしょう。喜びとはイエスとのつながりに根差した深く変わることはないものであると、パウロが知っていたからです。一方、幸せは表面的であり、長続きはしません。1章で、パウロは苦難の中に喜びを見出します。彼をさらに苦しめようとする人々がいても、死に直面しても、喜びを持っていました。今週の箇所では、肉体のいのちが続く限り喜びを見出せるとパウロは言います。今日の聖書箇所は、ピリピ 1:22-30 です。

### ピリピ 1:22-30

1:22 しかし、もしこの肉体のいのちが続くとしたら、私の働きが豊かな実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいか、私にはわかりません。 1:23 私は、その二つのものの間に板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。実はそのほうが、はるかにまさっています。 1:24 しかし、この肉体にとどまることは、あなたがたのためには、もっと必要です。 1:25 私はこのことを確信していますから、あなたがたの信仰の進歩と喜びのために、私が生きながらえて、あなたがたすべてと一しょにいるようになることを知っています。 1:26 そうなれば、私はもう一度あなたがたのところに行けるので、私のことに関するあなたがたの誇りは、キリスト・イエスにあって増し加わるでしょう。 1:27 ただ一つ。キリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、また離れているにしても、私はあなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにしてしっかりと立ち、心を一つにして福音の信仰のために、ともに奮闘しており、 1:28 また、どんなことがあっても、反対者たちに驚かされることはない。それは、彼らにとっては滅びのしるしであり、あなたがたにとっては救いのしるしです。これは神から出たことです。 1:29 あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです。 1:30 あなたがたは、私について先に見たこと、また、私についていま聞いているのと同じ戦いを経験しているのです。

パウロは、死ぬことも益だと語りましたが、教会のためを考えるなら肉体にとどまることもよしとしています。

### ピリピ 1:22,23

1:22 しかし、もしこの肉体のいのちが続くとしたら、私の働きが豊かな実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいか、私にはわかりません。 1:23 私は、その二つのものの間に板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。実はそのほうが、はるかにまさっています。

この場合の肉体のいのちとは、ローマ 8:5 で描かれた肉の欲にまみれた人生とは違います。単に、人間として生きることを意味します。パウロは、イエスとともにいることをはじめ、天に行けば祝福に与れるわけですが、その場所から福音伝道することはできないことを承知してい

ました。パウロは、イエスのもとへと人々を導きたいと心から願っていました。だから、むずかしい選択だと言ったのです。彼は、どちらを選んだらよいのかわからないと言っています。もちろん、自分でどちらかを決められると本気で思うほど、彼は無知ではありません。皆さんはどうでしょう。5分間で、天国に行くか地上にとどまるか決めなさいと言われてたら、ほとんどの人は地上にとどまると答えるでしょう。家族と一緒にいたい、就職先が見つかった、新しい家を買う予定だ、など理由はさまざまです。パウロの人生は違いました。そういったものはパウロにとって重要ではなかったのです。

#### ピリピ 1:24,25

**1:24** しかし、この肉体にとどまることが、あなたがたのためには、もっと必要です。**1:25** 私はこのことを確信していますから、あなたがたの信仰の進歩と喜びとのために、私が生きながらえて、あなたがたすべてと一しょにいるようになることを知っています。

24節まで来ると、パウロは肉体にとどまるほうがよいと納得しているようです。25節では、いつか釈放されて自由の身になると確信しているようです。パウロは並の使徒ではありません。彼はまったくぶれませんでした。人生における信仰の強い決心がありました。神の御霊がパウロを用いて新約聖書の約半分を記したのも、納得できます。では、27節を読みましょう。

#### ピリピ 1:27

**1:27** ただ一つ。キリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、また離れているにしても、私はあなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにしてしっかりと立ち、心を一つにして福音の信仰のために、ともに奮闘しており、

パウロは自問自答を終えると、ピリピの教会の状態にスポットを当てます。学校の教室で先生が出ていったら生徒はどんな状態になるでしょう。自分が生徒だったとき、先生がいなくてもかしくいられたか。パウロは学校の先生のような考え方をします。自分のことより、教会のことを心配しています。教会の信徒たちに、心から誠実であるかどうか自分を探してほしいと願いました。私たちも同じことを求められます。パウロは「ただ一つ」と言って、信徒たちに勧める内容をひとつに絞ります。ピリピの教会がローマの支配下にあることや、彼らがローマ帝国の市民権を持つ人たちであることを、パウロはわかっていました。それでもなお、天の国民として振る舞うことを信徒たちに望みました。パウロはピリピ3章20節で、彼らの国籍は天にあると語りました。

**ピリピ 3:20** けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。

天の国民はどのようにふるまうべきでしょうか。福音にふさわしいふるまいをするべきです。それは、みことばの教えに倣い、クリスチャンとしての誠実さや品性を映す生き方です。今日のメッセージからたったひとつのことだけを覚えるとするなら、このことを覚えていてください。「教会は、その神学に見合わない生き方をしてはならない。」教会が自らの伝えるメッセージに相応しない生き方をしてはならないのです。私たちは新しく造られた者なので、

**コリント第二 5:17** だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

私たちが本当に変えられたのなら、変えられた人のように生きなければなりません。そうでなければ、クリスチャンという言葉の意味を損ねることになります。パウロは、自分がそこにいるようにまいが、信徒たちが福音にふさわしい生き方をすることを望む、と続けました。キリストを示そうとするなら、信仰に堅く立つことが要求されます。とは言え、私たちはひとりでそうする必要はありません。ともに堅く立つのです。

#### ピリピ 1:28

1:28 また、どんなことがあっても、反対者たちに驚かされることはない。それは、彼らにとっては滅びのしるしであり、あなたがたにとっては救いのしるしです。これは神から出たことです。

パウロは、反対者たちに驚かされることはないと言いました。恐れてはならない、それは彼らにとっての滅び、私たちにとっての救いのしるしだというわけです。ここが分かれ目です。その両者が神の作品です。では、29-30 節を読みましょう。

#### ピリピ 1:29,30

1:29 あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです。1:30 あなたがたは、私について先に見たこと、また、私についていま聞いているのと同じ戦いを経験しているのです。

苦しみは恵みの賜物です。というのも、私たちがどちら側の人間かが苦しみによって明らかになるからです。ここで皆さんに7歳のマーク・エラルドくんについてお話したいと思います。彼は、タンジェイという町にある私たちの開拓教会を手伝いに来てくれたご夫婦の息子さんでした。マークは学校に行き始めましたが、学校でクリスチャンは彼ひとりでした。毎日クラスメートにいじめられ、あざを作って学校から帰ってきます。あまりにもかわいそうで見えられず、あるときマークとふたりで話をしました。するとマークは、大丈夫、殴られても平気だと言うのです。「僕はあざができるだけだけど、イエスさまは僕のために死んでくださったんだから、それに比べたらなんでもないさ」と話してくれました。イエスとひとつであることが明らかになった瞬間です。私たちは苦しみに遭いますが、ひとりぼっちではありません。パウロも苦難に遭いました。また世界中で多くのクリスチャンが、今日ここにいる私たちよりはるかに辛い目に遭っています。

## 結び

今日のみことばから、多くを学ぶことができました。それを短くまとめてみましょう。肉体の命が長らえる限り、私たちは天の国民として生きる必要があります。私たちの信じる神学に見合わない生き方をしてはいけません。つまり、信じているとおりに生きないのなら、私たちの命はキリストのために役に立てるのでしょうか、ということです。私たちは、「主のためにわれは生く み心を求めつつ 一筋に仕えなば」と賛美します。けれども皆さん、もし私たちがキリストを世に示していないなら、この世で何をしているのでしょうか。生きていれば、苦難や抵抗は必ずやってきます。これらのことは、イエスとともに生きている証拠です。ですから、ともに堅く立ち、この大阪の地で、神の御国の使節となりましょう。